タデアイノオト　第40回

遭遇

写真・文●青柳拓次

博多で、貴重な体験をした。

大人の女性が、人生で初めてハンバーガーを食べる瞬間に立ち会ったのだ。女性の名は、民謡の木津茂里さん。木津さんは、小さな頃から肉類を食べることが出来なかったので、ハンバーガーも食べることなく、他の人がかぶりついているのをいつも「かっこいいなあ」と眺めていたそう。

ふとしたきっかけによって博多にあるベジタリアンバーガーの店『mana burger』に入店することになり、ついに人生初のハンバーガー体験をすることになった。

大豆等をつかってかなりリアルに調理されたハンバーガーを頬張り「うわーおいしい！」と木津さんは声をあげた。「みんながやっているように、ケチャップもかけてみたい……」とケチャップをカウンターに取りに行き、つぎつぎと今まで体験出来なかった夢を実現していく姿に不思議な感動を覚えた。

こどもを育てていると、こうした初めての瞬間によく立ち会う。

去年の夏。扇風機を出してきて、風呂上がりに廻したその瞬間、娘は両手を拡げ目をまんまるにして「わあー！」と大きな声をあげた。人生で初めて扇風機の風にあたった彼女の反応を目の当たりにして、こちらも驚いてしまった。と同時に遠いキモチにもなった。

たべもの、風景、ひと、もの、全てに最初に遭遇した瞬間があるし、大人になった自分にも、まだまだ初めてのことは山ほどある。なんと人生は感動に満ちているんだろう。

翌日、唐津の窯元を呉服屋の若旦那さんに案内してもらう。その世界では大変名の知れた中里さんという方に、実際に制作している現場を見せて頂く。

選ばれたやわらかな土から、にゅっと美しい造形が魔法のように出来上がっていく。

すぐさま、いつだったか東京のピカソ陶芸展で、ピカソが陶芸を制作している映像を観たことを思い出した。

あのときに感じた、手のうごき一つひとつが瞬時にモノのかたちを作っていくそのスピード感と、想像しなかったものが突如現れてくる奇跡のようなものを見た感覚が蘇ってきたのだった。

夕暮れ時、フランスのアンティーク家具を取り扱う店のなかを友人と歩く。オーナーさんが、木の古いイスを出してくる。それを徐にひっくりかえしだした。すると、あれよあれよといううまに四段の階段に様変わりしたのだった。「ワー！　凄い！」三十代の男衆が声をあげて喜ぶ。「多分高い所のものを取る為のものでしょうね」とオーナーは満足そうな顔つき。

最新テクノロジーを駆使した仕掛けに驚くのとはなにかが違う……こんなアナログで効果的なカラクリは、体験した後に、ぼわっと温かいものが残る。

それから一週間して。東京三鷹の全ての喫茶店が、サラリーマンでいっぱいになっていた。

通りは台風の強い残り香のような風が吹き荒れていた。

いつも浮かない顔の男たちが「台風の強風で電車が止まってしまって」と電話で会社に告げると、とりあえず電車が動くまでのあいだ喫茶店に吸い込まれていく。店内では「だってしょうがないんだ、台風だから」とほくそ笑んだような後ろ姿がカウンターに並んでいる。

午後にはハッキリとした快晴となったので、わたしは隣町へ買い物に行くため電車にのった。

空いている車両の真ん中あたりに席をとる。

座席について目のまえに視線を向けると、左目の端に見える優先席で、ハシを使ってなにかをつまんでいる若い女性がいるのに気付いた。視線の先には茶髪の二十代女性。食べていたのは、ロールキャベツだった。総菜屋で買ったのだろう。ずいぶんしっかりとしたものを食べているな、とおもっていたら、こんどは右目の端に見える座席に、かがみこんでいる老人を見つけた。大丈夫だろうか？　と気になって見ていたら、手に何か吐きだした。入れ歯だった。彼はティッシュでそれを丁寧にくるんでポケットにしまった。

今日はなにか変な日だ。

Embryonic - Flaming Lips

彼らのドキュメント映画もみたり、周辺のバンドは聴いているのに、何故かアルバムを持っていなかった。今作の16曲目が夜中のラジオでかかって、あまりのぶっとんだ宇宙的な感じにびっくり。モラルも法律もない頭の世界を映しだしていて、やけに痛快。グラミー受賞者のなかでもっとも不安定だけど、最高のヴォーカル。

Drums and voices of korea - Samul-Nori

SAMUL-NORI
DRUMS AND VOICES OF KOREA

レコーディングは面白く難しいもので、同じ演奏でも、録音がその作品の命運を決めることがある。この作品は録音が良いので、より彼らの魅力が伝わってくる。ハチロクの三連フレーズを聴いていると、響きのなかにアフリカの太鼓が聴こえてくる。すぐ近くの場所にもエキゾチックに聴こえるものは沢山ある、と再確認。

あおやぎ・たくじ●Little Creatures、KAMA AINA、青柳拓次ソロ名義などで活躍するアーティスト。7月には、KAMA AINAとして、俳優・坂口憲二がサーフボードとともに日本全国を巡るロードムービーの、サントラ盤「海から見た、ニッポン ORIGINAL SOUND TRACK」を発売。10月3日には、絵本『つきのなみだ』（絵:nakaban、詩:青柳拓次）を発売した。